

第3回標準委員会 議事録

1. 日時 2000年2月10日 (木) 13:30～16:00

2. 場所 日本原子力研究所本部第1会議室 (富国生命ビル15階)

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 近藤 (委員長)、友野 (副委員長, TG02主査)、成合 (幹事, TG01主査)、
飯村 (TG03主査)、五百旗頭、池澤、井上、大西、大山、恩地、鬼澤、喜多尾、古
平 (TG 04主査)、佐藤、竹田、辻倉、林、平沼、宮野、山脇 (以上委員20名)

(代理出席委員) 岩田 (大和代理) (1名)

(欠席委員) 中平、干場、本部、熊沢、藤井、山下 (6名)

(常時参加者: TG01委員) 安藤、河本、中村、永田、樋口、藤本、増田、宮川、
矢作 (9名) (岩田は代理出席)

4. 議題:

- 1) 前回議事録確認
- 2) 標準委員会 運営内規の決議投票の結果
- 3) 標準委員会 活動基本方針の審議
- 4) 発電炉専門部会の設立の審議
- 5) 原子燃料サイクル専門部会の設立の審議
- 6) 研究炉専門部会の準備状況の審議
- 7) 専門部会委員の選任について
- 8) その他

5. 配布資料

SC3-1 第2回標準委員会議事録 (案)

SC3-2 第2回標準委員会議事メモ (案)

SC3-3 標準委員会運営内規の決議投票結果

SC3-4 標準委員会 活動基本方針 (案) (Rev.1)

SC3-5 標準委員会「発電炉専門部会」の活動方針提案 (案)

SC3-6 標準委員会「原子燃料サイクル専門部会」の方針提案 (案)

SC3-7 標準委員会「研究炉専門部会」に係わる準備状況について

SC3-8 標準委員会規程・運営内規の解説

SC3-9 標準委員会・専門部会の運営内規の解説

SC3-10 標準委員会専門部会委員選任方法について (タスク提案)

SC3-11 標準委員会発電炉専門部会委員候補・原子燃料専門部会委員候補

(参考) 標準委員会組織図 (平成12年1月31日現在)

6. 議事

(1) 前回議事録確認

前回議事録について了承された。

(2) 標準委員会 運営内規の決議投票の結果

資料SC3-3に基づき、TG01より標準委員会運営内規の決議投票の結果が報告され、投票の成立と運営内規の可決が確認された。なお、条件付き承認票の条件・意見については、用語上の問題が多いため運営内規の条文の精神を承認頂いたということで、字句の修正をTG01で検討することが了承された。

投票結果：総投票数24：成立条件22（委員総数27の4／5）以上を満足。

承認20票／条件付き承認4票：可決条件16票（投票数の2／3）以

上を満足。

(3) 標準委員会 活動基本方針の審議

TG01より、前回の概念案に対する意見を踏まえて検討を進めた活動基本方針（案）について説明され、議論が行われた。主な意見を以下に示す。

- ・基本方針ではあるが当面の活動が主体であり、今後定期的に見直していくことがあり得る。
- ・国の規制行政との棲み分けは、将来明らかになった時に具体的な手当を考慮し、現状は受け皿としての方向性を示している。
- ・学会の年会や大会での標準委員会の枠の確保、国際部会の設置、JISとの関連明確化が必要である。
- ・安全カルチャーの醸成・教育なども基本方針に入れる。

以上の議論の結果、これら意見を踏まえて次回会合までに最終版を作るべくTG01で検討を続けることとなった。

(4) 発電炉専門部会の設立の審議

発電炉専門部会立ち上げ準備グループ（TG02）より、資料SC3-5に基づき、今後の活動方針案及び部会委員候補、当面の「確率論的安全評価分科会」、「炉心・燃料分科会」の設立等が説明され、議論が行われた。主な意見を以下に示す。

- ・大学だから中立の立場とは言えない。標準の作成で専門家を集めるべきである。
- ・専門家で作成した結果の承認時に中立性が保たれる様に階層構造でバランスを取っている。
- ・専門的にするには委員数が多い。
- ・規程上専門部会長は標準委員会の委員となる様にしているが、夫々の委員会の位置付けが異なるため、分けた方が良い。
- ・トップダウンではなく委員会に独立性を持たせているが、専門部会の数が多くなれば親委員会の構成に影響は出てくる。メリット、デメリットの配慮が必要である。
- ・標準委員会の委員が専門部会以下の委員として活動できるようにはすべきである。

以上の議論の結果、内規修正のワーディングも含めてTG01で検討することとなった。

(5) 原子燃料サイクル専門部会の設立の審議

原子燃料サイクル専門部会立ち上げ準備グループ (TG03) より、資料SC3-6に基づき、今後の活動方針案及び部会委員候補、当面の「臨界・安全分科会」「バックエンド分科会」の設立等が説明され、議論が行われた。主な意見を以下に示す。

- ・案件候補の整理・分類の関する判定基準は、発電炉部会と同一項目の符番は統一するこ

とが望ましい。

- ・専門部会メンバーについては、炉側の委員との相乗りが出来ることが望ましい。
- ・「臨界・安全分科会」の名称は妥当か？臨界も安全の一部であるため分かり難い。

以上の結果、委員の相乗りについては分科会委員で考慮することとし、分科会の名称については、部会が出来たところで再検討することとなった。

(6) 研究炉専門部会の準備状況の審議

研究炉専門部会立ち上げ準備グループ (TG04) より、資料SC3-7に基づき、「研究炉分科会」「加速器分科会」の設立等の準備状況が説明され、議論が行われた。主な意見を以下に示す。

- ・加速器分科会のみ、学会のこれまでの部会との協調・協議による推進案が出ているが外にもこうした部分があるのではないか？部会の委員を取り込むことは良いが、標準を作るとの趣旨になっていない。

- ・学会の場で標準作成活動についてアピールして行く必要がある。

(4)～(6)の専門部会設立に関する議論を経て、近藤委員長から発電炉専門部会及び原子燃料サイクル専門部会の設置が諮られ、挙手による満場一致で2専門部会の設置が決定した。なお、研究炉専門部会については、TG04で検討を続けることとなった。

「発電炉専門部会」、「原子燃料サイクル専門部会」の設置の決議結果

委員数 20名、代理出席者 1名 合計21名

(議決必要出席者数 18名以上「27名の3分の2以上」を満足)

賛成票 21票 (出席者全員) 反対票 0票

(可決必要数 14票以上「評決者の3分の2以上の賛成」を満足)

(内規：第9条2決議、(3)号による。)

(7) 専門部会委員の選任について

TG01より資料SC3-10に基づき、部会発足時の専門部会委員の選任方法が説明され了承された。なお、発電炉専門部会および原子燃料サイクル専門部会委員の選任については、今後委員の追加を2/18迄に、2/25に委員候補案の送付、3/3に投票締めきりのスケジュールで行うこととなった。

(8) その他

事務局員の配置予定などが紹介された。

次回は4月20日に第4回委員会を開催することとなった。以上